



業績は堅調に推移している。回復基調にある利益の確保に注力し、持続可能で筋肉質な経営体制を確立する。高付加価値を生む事業や生産性向上の取り組みを加速させる。

大成ロテック

加賀田 健司社長

る。

工事部門は、地域密着型の営業活動を展開してエリア工事の安定受注を目指す。さまざまな社会インフラ整備事業にもビジネスチャンスを見つけていきたい。

製品販売部門は、アスファルト合材の出荷数量が減少しており、製造・輸送コストの上昇が高騰するなど厳しい環境だ。市場・競合分析を綿密

に行い、収益が向上できる体制を構築していく。

生産性向上に向け、合材の製造管理から施工管理、施工後の出来形管理に至るあらゆる面でICTを活用していく。

自動化や事業のDX化を推進し、AIも積極的に活用する。低炭素技術の開発にも力を注ぐ。

技術開発では、福島県田村市の大成建設グループ次世代

生産性向上へDX化加速

技術実証センターに開設した舗装のテストコースも大いに活用していく。社外にも開放し、オープンイノベーションの創出なども目指す。

2026年度は中期経営計画の最終年度を迎える。持続的成長を支えるのは人材（人材）だ。定年延長や若手社員向け研修の強化などを実施した。引き続き人事制度改革を段階的に進めていく。計画的な人的資本投資で社員を大切にし、人が集い動きがいのある会社を目指す。